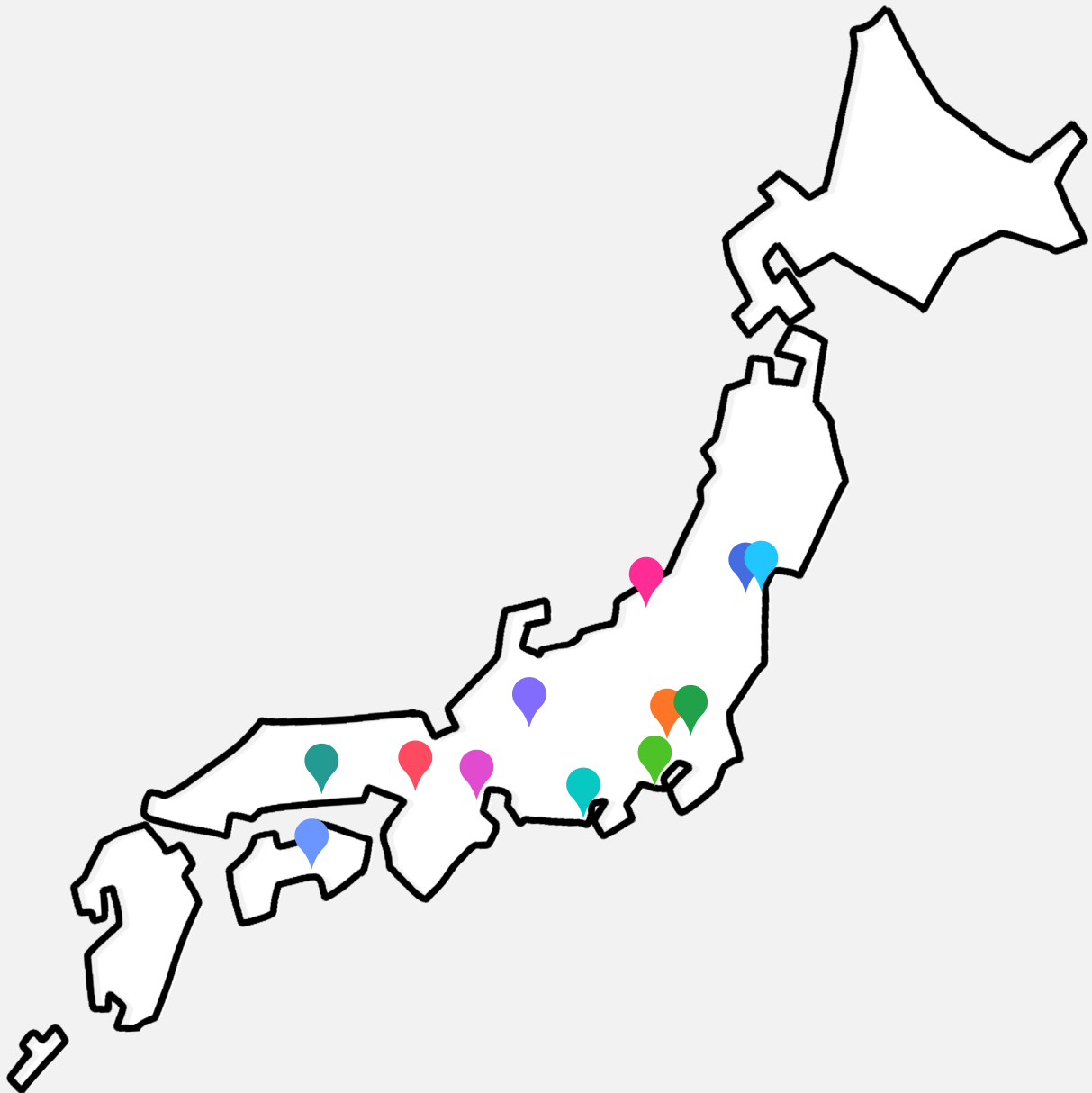


参考にしたい！
女性が力を発揮する地域の取組

12の活動事例





事例集の目次

全国には、地域で女性が力を発揮するために、
様々な工夫をしている自治体や地域組織、団体があります。
ここで紹介する取組を、これからの活動に取り入れてみましょう。

- 1 練馬区 危機管理室 区民防災課 地域文化部 協働推進課 ————— p.24
- 2 茨木市 市民文化部 人権・男女共生課 総務部 危機管理課 ————— p.26
- 3 新潟市 危機管理防災局 防災課 ————— p.28
- 4 四日市市 危機管理課 ————— p.30
- 5 清流の国ぎふ防災・減災センター げんさい未来塾 ————— p.32
- 6 市名坂東町内会 ————— p.34
- 7 川向地区防災会 ————— p.36
- 8 福住町町内会 ————— p.38
- 9 特定非営利活動法人 御前崎災害支援ネットワーク ————— p.40
- 10 川辺復興プロジェクトあるく ————— p.42
- 11 流山子育てプロジェクト ————— p.44
- 12 女性防災クラブ平塚パワーズ ————— p.46

1

練馬区 危機管理室 区民防災課 地域文化部 協働推進課

身近なところから少しずつ # 学びの後の活動につなげる



取組概要

練馬区立防災学習センターでは、様々な視点から防災の知識や技術について学べる「ねりま防災カレッジ(平成24年度～)」を開講している。区民のニーズを踏まえ、徐々にカリキュラムなどを増やしてきた。講座では、「女性防災リーダー育成講座」や「乳幼児の保護者向け防災講習会」を開講。また、区民の地域活動を支援する協働推進課と連携し、地域で防災活動を行いたい人と地域をつなぐための「つながるカレッジねりま 防災分野 共助コース(令和2年度～)」などを実施している。

活動のきっかけ

より多くの
女性が防災の
取組をはじめ
きっかけを
つくりたい！

阪神・淡路大震災をきっかけに、練馬区では区立の小・中学校を「避難拠点」に指定し、地域、学校、行政の三者が連携して防災活動を進めていました。その後、東日本大震災が発生し、避難所運営などにおいて女性参画の重要性が再認識されました。

これまで以上に、女性の視点を含めた防災対策の推進を目指し、女性を対象とした「女性防災リーダー育成講座」を開講しました。他にも、「**乳幼児の保護者向け防災講習会**」など、**防災意識の高い、区民の様々なニーズに応じたカリキュラムなどを展開**しています。

1

1 気軽に参加できる講座を開講

日常生活とつながる内容で防災を身近に感じられる

ねりま防災カレッジの「女性防災リーダー育成講座」では、被災地支援の経験を持つ**民間企業の方に登壇を依頼**し、区民が気軽に参加できるようにしています。

また、「乳幼児の保護者向け防災講習会」では、**乳幼児の保護者にターゲットを絞り**、防災を身近に感じられるカリキュラムにしています。それぞれの講座は、区報やホームページ、SNSなど、募集情報を様々なツールで対象者に届ける工夫をしています。

p.6 Q1A2

p.12 Q5A1

p.16 Q7A1



▲ 乳幼児の保護者向け防災講習会

さらに
いいこと！



日常生活の延長にある防災に関心を持つことで、その他のカリキュラムの受講や、実際の地域活動につながっている。子育て中の若年層の女性の参加が増えていることも大きな変化。



1 2 地域で活動を始めるときにバックアップ

受講後、自主防災組織などで継続して活動できる

「つながるカレッジねりま 防災分野 共助コース」では、防災に関する知識だけでなく、「これから自主防災組織に入る側」として、活動するにあたっての心構えなどについても学んでいます。

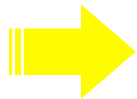
修了生との面談を通して、活動の場となる自主防災組織や団体などのマッチングを行っています。一人ひとりが希望に沿った活動を選択できるよう、丁寧に話し合います。

修了生の活動の様子をホームページ・広報誌へ掲載したり、活動を発表する場としてイベントを行うなど、活動をPRする機会を提供しています。新たな団体を立ち上げる場合にもサポートするなど、**地域で活動を始めるときのバックアップ**も行っています。

p.16 Q7A2

p.21 Q9A2

これをやったら
うまかった！



受講生同士のみならず、受講生と
地域組織がつながることで、
実際の活動への参画につながっている。



▲活動PRイベント



▲修了生との面談

1 3 自主防災組織と行政の連携

地域の住民も行政も、同じ目的に向かって話し合える

女性の意見の重要性についても記載した「避難拠点運営の手引」を作成し、**地域と学校、行政の三者が連携**し、避難所の運営方法について議論を進めています。また、地域の自主防災組織が訓練を実施する際には、区職員も参加して技術指導を行うなど、自主防災組織と行政が日頃から連携しています。

東京都
練馬区 危機管理室 区民防災課
地域文化部 協働推進課

<連絡先>

練馬区立防災学習センター
電話:03-5997-6471

区の担当者からのメッセージ

災害時は、自分自身で命を守る必要があります。「ねりま防災カレッジ」では、発災時の身の守り方をはじめ、災害に対する事前の備えを学習・体験できるようなカリキュラムにしています。また、様々な防災の視点からカリキュラムを実施することで、対象者が変わり、より身近に防災を感じていただけるようにしています。また、毎年新しい内容を取り入れ、継続的に受講してもらえるように工夫しています。

2

茨木市 市民文化部 人権・男女共生課
総務部 危機管理課

女性の防災リーダー育成 # 発信力 # 参加者の増加



取組概要

平成24年度に女性を対象とした防災講座を開始。
平成26年度からは、危機管理課と人権・男女共生課
の共催により、「女性防災リーダー育成講座」を実施
し、現在も継続中。

女性防災リーダー育成講座 ▶



活動のきっかけ

男女共同参画の
視点からの
防災の取組を
進めたい！

男女共生センターローズWAM主催の「女性を対象とした防災講座」を担当していた人権・男女共生課が危機管理課に共催を持ちかけたことをきっかけに、両課の連携を開始。部署を超えて、危機管理課の所管である自主防災組織の女性会員を対象とした「女性防災リーダー育成講座」を共同で始めました。また、地域における方針決定過程に参画できる女性リーダーの育成を図るため、市の自主防災組織連絡会に「女性部会」を設置し、これまでに「女性防災リーダー育成講座」を受講した女性たちが会員となって、女性の視点での防災対策の検討を行っています。

課題

人権・男女共生課
からの呼びかけ
だけでは、講座後
に女性の意見が
どのように地域に
伝わるのか見え
なかったが…

人権・男女共生課では、広く「女性を対象」として参加者を募集すると、講座後の地域で女性の意見がどこまで反映されているのか見えにくいという課題がありました。一方、危機管理課では、「自主防災組織の女性を対象」に声をかけると、参加者の年齢層が高くなり、かつ、参加者が固定化されてしまうという課題を抱えていました。

そこで、人権・男女共生課と危機管理課が連携して参加を募った結果、年齢も所属も異なる様々な女性が参加する講座が実現。新規の参加者の増加につながりました。自主防災組織ですでに活動している女性と、これから活動する女性が交流することで、活動の理解も進み、新たなつながりが生まれています。



▲ワークショップの話し合い

p.16 Q7A2

p.19 Q8A3

2

1

女性防災リーダー育成講座

防災の知識や情報を自分の言葉で伝えることができる

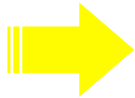
「女性防災リーダー育成講座」では、会場にお菓子を置くなど、参加者同士が話やすい雰囲気づくりに努めています。ワークショップを多く取り入れることで参加者同士の交流を促し、すべての参加者が自分の意見を発言できるよう工夫しています。

p.10 Q4A1

p.18 Q8A2

p.20 Q9A1

これをやったら
うまくいった！



紙芝居などのツールを作成することによって、人前で話す経験の少なかった女性も自信を持って説明できるようになった。



▲紙芝居で説明している様子

2

2

地域での実践をサポート

継続した女性同士のつながり、地域の理解が、活動の支えになる

防災に関心を持ち、地域で防災活動ができる女性が増えるよう、「女性防災リーダー育成講座」を定期的実施することで、防災に関する知識を習得してもらうとともに、女性同士の情報交換の場にもなっています。

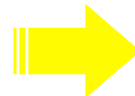
また、自主防災組織連絡会において「女性部会」の活動報告の機会を設けたり、防災訓練などで女性メンバーがブースを担当することにより、自主防災組織の会長たちに女性メンバーの活動を知ってもらえるようにしています。

p.11 Q4A3

p.21 Q9A2

p.21 Q9A3

さらに
いいこと！



講座の場が、市内の女性たちのつながりを持つ機会となり、ネットワークづくりを促進している。会長たちが女性の活動を知ることによって、活動の中で女性に意見を求めるなど、地域の中の意識に変化が起きている。

大阪府
茨木市 市民文化部
人権・男女共生課
総務部 危機管理課

<連絡先>

茨木市立男女共生センター
ローズWAM
電話：072-620-9920

市の担当者からのメッセージ

女性の視点、多様な視点を取り入れた防災活動を促進することは、「女性だけでなく、すべての住民のみなさんの安全・安心につながる取組である」ということをより多くの方に知ってもらい、「自分の特色(強み)を地域防災に活かしたい」と考えてもらえるよう、人権・男女共生課と危機管理課が、それぞれの強みを活かし、取組を進めています。私たち職員も「できることをできる部署で」の助け合い。連携の秘訣です。

3

新潟市 危機管理防災局 防災課

多様な分野に防災の視点を # 主体的に活動できる場づくり



取組概要

平成30年度から、女性防災リーダー育成講座「やろてば！防災女子カフェ」を開催。令和元年度には、新潟市防災士の会の部会として「新潟防災女子(NBJ)」を設立した。



▲NBJの研修の様子

活動のきっかけ

実際に地域で活動できる女性を増やしたい！

災害時の女性の課題の解決に向け、より多くの女性に防災活動に参加してほしいという思いから、「親子防災講座」を開始しましたが、子どもと一緒に楽しみながら防災意識を高めることに重点が置かれたため、地域の防災活動への女性の参加拡大にはつながりにくい面がありました。

そこで、**女性の防災リーダーの育成を目指した講座「やろてば！防災女子カフェ」を開始。**

また、女性防災士の活動の機会を増やすため、新潟市防災士の会に女性部会である「新潟防災女子(NBJ)」を設立しました。

課題

市広報誌での参加の呼びかけだけでは、その後の活動にはつながりにくかったが…

p.7 Q2A2

p.19 Q8A3

当初、講座への参加を市広報誌で呼びかけていましたが、講座後の実際の活動につながりにくいという課題がありました。

そこで、**地域で既に活動している様々な分野の団体に、「現状、防災に女性の視点が足りない。女性の視点を取り入れた避難所運営ができるようにしたい。」という趣旨を説明し、参加を募りました。**

その結果、多様な団体が参加。**各団体の活動に防災を取り入れてもらうことができ、実際の地域の防災活動につなげることができました。**

やろてば！▶
防災女子
カフェの様子▼

3

1

やろてば！防災女子カフェ

多様な活動に防災を取り入れて、
地域での実際の活動につなげていく

食生活改善推進委員や運動普及推進委員、市内大学のボランティアサークルなど、**すでに様々な分野で活躍している女性を中心に参加を呼びかけ**、企画の段階から協働して講座を作りあげています。

呼びかけには各所管課に協力を仰ぎ、チラシの配付や人材の推薦を依頼する代わりに、各団体の活動のPRの場を提供するなど、各所管課との連携を促進するための工夫をしています。

p.18 Q8A1

p.21 Q9A3



これをやったら
うまくいった！

分野を問わず、地域活動に積極的な女性たちを巻き込むことで、新たな人材の発掘と実際の防災活動への参画につながっている。

3

2

新潟防災女子(NBJ)

自由な発想で、主体的に活動できる

市が事務局を担い、女性防災士の主体性に重きを置きながら、自主的な活動を支えています。

毎年、研修会を企画・運営するほか、地域で防災活動を行う上での悩みや課題、成果などを共有し、地域の枠を超えた女性防災士の横のつながりを深めています。また、既存の地域組織で思うように活動できない女性にとっては、**地域組織以外で自分のやりたいことを実現できる場所**になっています。

p.20 Q9A1

さらに
いいこと！

学校や地域での防災講座で講師を務めるなど、アウトプットの機会を活かして、女性防災士の活動を地域へPRしている。

新潟県

新潟市 危機管理防災局 防災課

<連絡先>

新潟市 危機管理防災局 防災課

電話:025-226-1143

市の担当者からのメッセージ

平成30年度から取り組んできた「やろてば！防災女子カフェ」ですが、毎年、参加者の皆さんがつながり、防災活動の輪が広がっています。

平成27年度に7.1%だった新潟市防災士の会の女性割合も、令和2年度には15.5%と年々高まっています。

今後さらに、防災活動における男女共同参画を進め、誰もが安心して暮らせるまちを目指します。

4

四日市市 危機管理課

男女共に男女共同参画を学ぶ # 地域の力で想いを形に



取組概要

平成17年度から、防災リーダー養成講座「四日市市防災大学」を実施。平成25年度からは、女性住民を対象とした「防災・減災女性セミナー」を開始し、現在は「四日市市防災大学」と合同で実施している。



活動のきっかけ

地域全体で男女共同参画の視点を取り入れた施策に取り組むことが必要！

東日本大震災の教訓から、危機管理室(当時)の職員内で、「地域の防災活動には女性の視点が不可欠。女性の参画を強化しなければ」といった課題意識が高まっていました。

そんな中、内閣府より「男女共同参画の視点からの防災・復興の取組指針」が公表され、それを機に、市民文化部男女共同参画課と協働で女性セミナーを実施しました。その後、開始から既に8年が経過していた「防災大学」のカリキュラム変更に併せて、防災大学と連動した「防災・減災女性セミナー」を開始しました。

課題

セミナーの受講だけでは、地域の防災組織への参画につながりにくかったが…

p.19 Q8A4

平成25年度に女性セミナーを実施しましたが、それだけでは、受講生が地域の防災組織への参画につながりにくい状況がありました。

そこで、既存セミナーの「防災大学」と「防災・減災女性セミナー」を連動させ、合同で実施することにしました。地域から推薦された人が学ぶ「防災大学」の受講者も、女性セミナーと同じ講座を受講することで、男女共同参画の視点からの防災について学ぶことができます。また、ワークショップでは同じ地域の男女の参加者を一緒にグループに配置することで、セミナー修了者が地域の防災活動に参加しやすくなるよう工夫しています。



▲防災大学と女性セミナーの合同研修

さらに、同時期から自治会連合会が中心となり、男女共同参画の視点を取り入れた防災まちづくりに関するセミナーを各地区で開催するなど、市全体として、防災への女性参画の重要性を啓発するようになりました。

4

1

防災大学、防災・減災女性セミナー

受講者みんなが参加し、協力して講座を運営できる

自助・共助の活動の一つとして、講座の受付や会場の撤収など、運営の一部を受講者をお願いしていたことで、**受講者が運営に協力することが当たり前**となり、さらには受講者同士の交流につながっています。また、「防災・減災女性セミナー」の受講者には、男女共同参画課が開催する「はもりあフェスタ」などで、**自分たちが学んできた成果を発表する場を用意**しています。発表の場に地域の自主防災組織の方たちも招くことで、女性の視点からの防災について知るよい機会となっています。 [p.11 Q4A3](#) [p.18 Q8A2](#)



▲女性セミナーの
合同発表会の様子

4

2

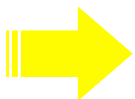
避難所運営の手引きの作成

女性の視点から避難所の課題を見つけて、解決のためのアイデアを形にできる

自治会連合会からの企画・提案を受け、平成27年度には、自治会連合会、地区防災組織連絡協議会、市の3者が協働して「避難所運営の手引き」を作成しました。作成にあたり、「防災・減災女性セミナー」の受講生や地域で防災活動している女性によるワーキンググループを開催し、**チェックリストに女性の参画に関する項目を盛り込むことや、イラストを増やして分かりやすくすることなどの意見が反映**されています。

その後、作成した手引きを基に、女性の参加者だけで「避難所設営の訓練」を行いました。自治会や自主防災組織の役員など、男性たちは訓練の様子を見学し、女性の視点について学びました。

これをやったら
うまくいった！



女性の参加者だけで訓練を行うことで、女性の視点から避難所設営における課題を洗い出すことができ、地域の自主的な活動による避難所案内表示板の作成につながった。



▲女性による避難所設営訓練

三重県

四日市市 危機管理課

(令和4年度 危機管理室から
組織名称変更)

<連絡先>

四日市市 危機管理課

電話:059-354-8119

市の担当者からのメッセージ

四日市市では、男女共同参画についての施策検討を始める中で、自治会、自主防のリーダーの理解と協力があって、地域からの提案による避難所運営の手引きの作成に至るまでに3年かかっています。

男女共同参画の視点を取り入れた防災まちづくりは、行政だけでは広めることが難しく、地域の自主的な活動を大事にして取り組んでいただきたいと思います。

5

清流の国ぎふ防災・減災センター
げんさい未来塾

スーパーバイザー # 卒業後のつながり



組織概要

清流の国ぎふ防災・減災センターは、岐阜県と岐阜大学の共同によって設置された機関。センターでは、平成28年に「げんさい未来塾」を開始。第1期生の1人は、「清流の国ぎふ女性防災士会」を設立。



活動のきっかけ

実際に地域で
動ける人を
育てたい！

これまで全国各地で行われてきた地域防災の人材育成のための研修では、受講した後の活動につながらないことが課題でした。そこで、**人材育成の目的を「実際に地域で動ける人を育てること」と定義し、一人ひとりに合わせた取組を行うことにしました。**

大学と行政が連携して取組を進め、参画する人の多様性、主体性を意識するようにしています。

5

1 スーパーバイザーの伴走

テーマ決めから講義まで、
講座づくりを実践しながら学べる

書類選考と面接によって選ばれた受講生には、**県内のNPO法人・地域の防災団体で活躍している人や防災関係の大学教員などのスーパーバイザーがつき、1年間、各受講生の防災活動を伴走支援します。**一人ひとりが設定した目標の達成に向けて、自分でカリキュラムを組み立て、人前で実際に講義を行うまでの一連の流れを、実践しながら学びます。

スーパーバイザーたちは月に1度会議を開いて、受講生の進捗状況を共有したり、育成の進め方などの認識合わせを行っています。

p.18 Q8A1

p.18 Q8A2



▲げんさい未来塾のイベントの様子

さらに
いいこと！

卒業生の半数は地域の自主防災組織で活動しており、地域組織には参画していない人も、防災に関する活動を継続することができている。

5

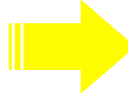
2 ネットワークづくり

身近なロールモデルが見つかる

中間報告会や卒塾式、地域住民を対象とした講座など、1年の間に数多くのイベントを実施しています。これらは、塾生同士だけでなく、塾生と卒塾生が交流するよい機会にもなっています。また、卒塾生が参加するメッセンジャーグループやメーリングリストがあり、**卒塾後もお互いに情報交換ができる**ようにしています。県内各地域で卒塾生が増え、活動のつながりも濃くなっています。

p.16 Q7A1

p.21 Q9A3

さらに
いいこと！

卒塾生の活動を知ること、
お互いの学びになり、
身近なロールモデルを
探すことができる。



5

3 清流の国ぎふ女性防災士会

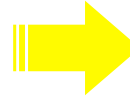
研修の学びを活かして、自分らしい活動ができる

げんさい未来塾の1期生として学んだ女性は、**女性防災士の少なさや、女性が地域で活動する難しさ**を感じ、「清流の国ぎふ女性防災士会」を立ち上げました。

仕事をしながら活動している女性が多いため、団体として持っている情報をすべてメンバーに共有し、できる時に参加できるようにしています。

地域では上手く活動できない、なかなか地域の理解を得られないといったメンバーが多いことから、女性防災士会主催で**住民向けの講座を開催**し、メンバーが講義を行うなど実践の場を提供しています。

p.16 Q7A1

さらに
いいこと！

意見の受け取り方や
合意形成の手法、
ファシリテーターの仕方など、
げんさい未来塾で学んだことが
活動に役立っている。
げんさい未来塾の地域版を女性防
災士会の中で実施している。



岐阜県
清流の国ぎふ防災・減災センター
げんさい未来塾

<連絡先>

清流の国ぎふ防災・減災センター
電話:058-293-3890

代表者からのメッセージ

げんさい未来塾では、「頑張りたい人を応援する」ことを大事にしています。興味がない人に興味を持ってもらうことはとっても難しいですが、興味を持ってくれている人と一緒に活動することはそれほど難しくはありません。また、安心して失敗できる環境づくりも大事です。失敗は、できていないこと、気づいていなかったことに気づくチャンスであり、宝物です。私たちはそんな環境を大事にしています。

6

市名坂東町内会

できる範囲でゆるやかに # 助け合い # 集会所



組織概要

平成20年4月設立。平成23年3月11日に東日本大震災を経験。震災前から、役員全員が女性で構成されている。

備蓄倉庫 ▶



活動のきっかけ

災害時は
地域での助け合い
が大事！

町内会の設立時は、新興住宅地のため、多くの人が働き盛りで町内活動の時間をとることができませんでした。そのような中、活動ができる人を募ったところ、女性が集まり、それ以降女性が中心となって活動をしています。

会長がチリ地震の津波と宮城県沖地震を経験していたことから、災害時に地域で助け合うことを大切にするため、町内会のスローガンの一つに「災害、防災には適切に対応支援活動ができる町内会」を掲げました。

課題

女性たちが
自分の言葉で
発言することが
難しかったが…

当初、会議に出席する女性たちから、「夫の意見は〇〇です」「パパは〇〇と言っています」という発言も多く、自分としての意見をなかなか言ってもらえませんでした。

そこで、「会議に出ているあなたの意見を言ってね」と伝え、1人ずつ順番に意見を聞き、**会議の場にいる全員に必ず発言してもらうように工夫**しました。そうした会議を重ねる中で、徐々に女性たちが自覚をもって発言できるようになりました。 [p.14 Q6A1](#)

6

1 集会所の設計・建設

女性たちで集会所を設計して、活動しやすくする

地域の人が集まる場所が、町内になくはないという思いから「集会所」の建設を決め、設計の段階から女性たちが意見を出し合い、**災害時を想定して様々な工夫**をしました。災害時には、指定避難所(小学校)へ行くメンバーと、集会所(町内会)へ行くメンバーに分かれて活動することにしています。

- ✓ 災害時の復旧が早いオール電化
- ✓ トイレは障がい者用と合わせて2つ用意
- ✓ 備蓄倉庫は女性の背丈に合わせ、高いところには設置せず、作業しやすいよう段差をつけた
- ✓ 集会所の備蓄は町内会費で準備

こんな
いいことが
あった！

東日本大震災が発災した時には、100名近くの女性と子どもが集会所に避難し、備蓄していたアルファ米と飲料水を提供した。



6

2

活動の工夫

できることを、できる人が、できるときに活動する

役員の女性たちは、自分の生活スタイルの変化に伴って、役員を辞めたり戻ったりしています。月に1回実施している役員会に、全員がそろったことは今まで一度もありませんが、できる範囲で活動を続けています。

p.6 Q1A1

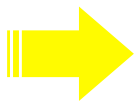
p.12 Q5A1

p.13 Q5A3



▲役員会の会議の様子

こんな
いいことが
あった！



妻が地域活動を頑張ると、夫も協力してくれる。
お祭りと併せて防災訓練を行うと、子供が母親と遊びに来る。
すると、父親も一緒に付いてきてくれる。そんな家庭が多い。



6

3

女性コーディネーターの育成

市名坂小学校区避難所運営委員会事務局長として

避難所での言いにくい困りごとを
聞き取るための平常時の取組

避難所運営委員会に、情報班や衛生班などと同じ並びに
位置づけ、避難所の多様なニーズを聞き取るための女性
コーディネーター部門を設けています。

コーディネーターの女性たちは、困り事カードをつくり、日
頃から様々な問題について考え、対応を事前に考えられる
ようにしています。



▲女性コーディネーター

宮城県 仙台市
市名坂東町内会

<代表者>

市名坂東町内会長

市名坂小学校区避難所

運営委員会 事務局長 草 貴子

<連絡先>

草 貴子

電話:090-5836-2476

代表者からのメッセージ

地域活動において、その運営を気持ち良くスムーズに行う秘訣は「男性・女性と性別で区別することなく、それぞれの特性を尊重して活かすこと」、「私の役目を自任し、貴方の役目を認めながら身の丈にあった、オリジナリティのある活動を無理なく実践すること」だと考えています。

地域づくりは人と人との繋がり。私も出来る事から積極的に取り組み、その一翼を担っていきたいです。

7

川向地区防災会

規約の明記で男女同数に # 本来もつ力を育む女性部会



組織概要

平成17年8月設立。役員の男女比はほぼ半々。防災会組織は町内会と同じエリアをカバーしている。また、53の組織からなる安芸市自主防災組織連絡協議会の役員は、2名ずつの男女同数。協議会の「女性部会」は、会長・副会長を担う人材育成の場にもなっている。

活動のきっかけ

男女共同参画の視点による「防災会」の必要性を確信！

町内会が母体となり防災会を立ち上げました。設立したものの、立ち上げに関わったメンバーの中には、「防災は主に行政、男性がやるものでは？」と思っている人もいました。阪神淡路大震災時の避難所運営において女性が抱えた課題について当事者から報告を受け、**防災こそ男女共同参画の視点が必要である**ことが分かりました。そこから、積極的に、地域の女性と共に活動をはじめました。

課題

防災会の設立を提案するも、受け入れられなかったが…

p.9 Q3A3

町内会の総会で、会員の女性（現防災会事務局長）が防災会の設立について提案しましたが、当時の男性中心の役員は、女性の突然の提案に驚いたようで、上手く取り入れてもらうことはできませんでした。その後、女性は役員に男性に相談し、「町内会の役員らに事前に防災会の必要性を丁寧に説明し、理解を得ておく」とのアドバイスをを受け、次年度、その男性から提案する形で設立が決定しました。

7

1 規約への明記など

女性が組織に参画しやすい体制になる

- ✓ 防災会の規約に、副会長と副班長を「**男女各1**」と記載することで、男女比を崩さないようにしています。
- ✓ 役員数を増やすこと(21名)で、女性も役員になりやすく、防災に関わりやすくしています。
- ✓ 世帯主ではなく、実際に活動している人の名前を記載するようにしたことで、女性たちの名前が名簿に載り、女性の参加率が高まりました。
- ✓ 女性も男性もすべての活動や作業を体験しておくために、性別で分けずに役割を割り振っています。

p.7 Q2A1

p.8 Q3A1

p.9 Q3A2

p.14 Q6A1

川向地区防災会 規約 抜粋

- 第6条(役員)
防災会には原則として、次の役員を置く。
会長 1名 副会長 **2名(男女各1)** 事務局 1名
班長 1名 副班長 **2名(男女各1)** 監査 1名
委員 若干名(消防 日赤 リーダー長 リーダーなど)
- 第8条(役員の任期)
役員の任期は総会の翌日から次期総会の日までとする。ただし再任を妨げないが会長の任期は最長2年とする。
班長、副班長は原則として名簿の順とし、1年交代とする。
班長は75歳以上は免除とする。また、健康上などの諸事情により免除することもある。

▲ 防災会の規約の抜粋

さらにいいこと！

役員的女性が増えることで、女性が自分の考えを伝えやすくなり、組織の中での女性の意見が強まった。



7

2

女性のアイデアを実現するための工夫

仲間のアイデアを、みんなで一緒に実現できる

女性が自由に発案した訓練メニューをみんなで協力しながら実現させています。女性も自分の意見を言えるようになったことで、やりたいことができるようになり、訓練時の非常用持出品の確認や夜間訓練、防災ビンゴなど、防災訓練のメニューが増えました。活動する本人たちが楽しんで行えることを大切にしています。

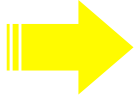
p.11 Q4A2

p.13 Q5A3



▲女性が発案した訓練などでの防災劇

これがコツ！



活動は完璧を目指さずに6割くらいが合格点。残り4割は、次に生かすための余白と考えると、次に繋げやすい。中学生は司会、高校生は訓練メニューの提案・実践などの役割を担い、世代を超えて積極的に参画しており、未来に向けたよりよい活動を目指している。



7

3

女性部会の活動

女性たちが安心して自由に発言し合う

安芸市自主防災組織連絡協議会の「女性部会」は、学習の場であり、企画立案する場でもあり、女性同士で不安なことを相談し合え、お互いに安心して集える場でもあります。市の危機管理課も寄り添ってくれます。

女性部会のメンバーは、女性部会で自分の考えを自分の言葉で伝え、意見交換し合う経験を積み重ねたことによって、自信をつけ、地域や自主防災組織連絡協議会の役員としても活躍しています。

p.9 Q3A3

p.14 Q6A1



▲女性部会の活動の様子

高知県 安芸市
川向地区防災会

<代表者>
事務局 仙頭 ゆかり

<連絡先>
安芸市 危機管理課
電話:0887-37-9101

代表者からのメッセージ

「防災活動へ！女性の参画が必要です。」災害は脆弱なところに、より大きなダメージをもたらします。現状は、女性は男性より介護、子育て、地域のお世話役に関わることが多いと思います。女性は皆の代弁者にもなりえます。女性は地域の牽引者でもあります！！日頃より、防災活動にかかわることがいざというときに力を発揮します。地域のつながりが命を助けます。その一步を仲間たちと踏みだしましょう！！

8

福住町町内会

#夏祭りと防災訓練 #学校・町内会・行政が連携



組織概要

昭和46年設立。平成23年3月11日に東日本大震災を経験。
執行部役員42名中、その半数以上が女性で構成されている。

活動のきっかけ

震災や防災部長としての経験から、女性の参画の重要性を実感！

以前、町内会の女性は、男性中心の活動を手伝うという意識でした。東日本大震災の時には、女性も主体的に活動しており、避難所で**女性が行う仕事の多さ、女性が参画することの大事さに気が付きました**。もともと町内会の行事が多く、役員の人数が多かったため、防災部長に女性が就任したことをきっかけに、女性が地域の防災活動に参画しやすくするための取組を始めました。

課題

男性主体の組織では意見を言にくかったが…

現在町内会の防災部長を担っている女性は当初、男性主体の組織では発言しにくく、婦人部長の女性に相談して背中を押してもらいました。また、東日本大震災後、防災リーダー育成のための「仙台市地域防災リーダー(SBL)養成講座」を受講したことによって、SBLという肩書と防災の知識を手に入れ、それが自信となり、発言できるようになったり、仲間とつながることができ、活動の範囲が広がりました。現在、町内会では防災部長の声かけにより、**性別を問わずに率先して片付けを行ったり、男女ともに性別に基づいて役割を押し付けたりしないように意識するようになり**、メンバーの価値観や考え方が10年かけて改善されてきました。**個人の意識の変革が、少しずつ組織の変化へとつながっています。** [p.9 Q3A3](#)

8

1

夏祭りと防災訓練をつなげる

少ない時間の中でも効率よく、地域で活動できる

夏祭りの役員が、防災訓練でも同じ役割のまま活動しています。それぞれの役割を、写真のようにエプロンの色で分けています。活動を毎年ノートに記録し、ノートを見ると何をやるのか分かるようにしています。**働く人が多い小中学生の母親たちは**、少ない時間の中で上手く時間を使い、効率よく準備や片付けを行っています。

[p.7 Q2A1](#)[p.9 Q3A2](#)[p.12 Q5A1](#)

8

2 子どもたちとの合同訓練

ライフステージが変わっても、
継続的に活動できる

小中学校の子どもたちに地域の防災訓練に参加してもらい、子供会の役員たちも協力しながら、消火や炊き出しなどの様々な訓練を行っています。

中学校の役員は、中学校を卒業後も婦人防火クラブとして活動し、継続的に活動に参加できるようにしています。防災訓練の企画内容は、女性の防災部長と中学生担当の男性の役員が中心になり、中学生も巻き込んで一緒に考えることで、子どもたちが地域の役員を知る機会になり、震災の時も活躍してくれました。 [p.6 Q1A1](#) [p.13 Q5A3](#)



▲中学生との防災訓練の様子

8

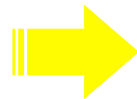
3 避難所運営協議会

議論の場で発言することで、
課題を解決していける

避難所運営の際に施設管理者となる**学校の校長先生・教頭先生**や、**避難所運営委員長、SBL、行政、町内会長**が一体となって協議会を開催しています。

避難所運営委員会でも、協議会の一員として、避難所運営マニュアルの整備やトイレの洋式化について意見し、行政に取り入れてもらいました。

これをやったら
うまくいった!



議論の場に女性が参加するだけでなく、そこで自分の意見を伝えることを大切にしている。意思決めの場で発言することで、他の女性たちも声を上げることにつながり、様々な立場の女性の声を拾い上げることができている。



宮城県 仙台市
福住町町内会

<代表者>
副会長・防災部長 大内 幸子

<連絡先>
大内 幸子
E-mail:greatbado@gmail.com

代表者からのメッセージ

災害は何時でも何処にでもやってきます。災害時に女性のリーダーが必要であるとの教訓から、持続可能な防災・減災の取組を、諦めずに継続する事で、いつか必ず役に立つ時が来ます。「女性の視点での防災」という言葉から「男女で互いの視点を尊重し、補い合う」そんな防災が理想です。

9

特定非営利活動法人
御前崎災害支援ネットワーク

研修で防災を自分ごとに # 参加ではなく参画



組織概要

平成19年4月創設、平成25年10月に法人格設立。「女性のための防災・減災リーダー養成講座」を実施。



活動のきっかけ

自主防災組織の活動に関わる女性を増やしたい！

当時の静岡県と御前崎市の防災会議はほとんどが男性で**意思決定の場に女性が参画することが難しく**、地域の防災活動においても「女性は炊き出しに参加していれば良い」とされている状況でした。

現在代表を務める女性が、過去の災害時に現地でボランティアを行った際、女性が避難生活で直面する課題を目の当たりにし、女性が意思決定の過程や災害対応の現場に関わることの重要性を認識したことをきっかけに団体を立ち上げました。

団体は、自主防災組織の活動に関わる女性を育成したいという思いから、女性を対象とした研修を始めました。

9

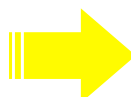
1

研修の内容・講師の選出

防災を自分事として考えられるカリキュラム

避難所での女性の困り事や災害時の女性や子供に対する暴力に関する講義や、避難所の生活体験を通して、女性が防災を自分事として考えられるようなカリキュラムを企画しています。講師には、メディアで見かけて**話を聞きたいと思った先生に手紙やメールを送り、直接講義を依頼**しています。

今後、自分たちの地域ではどのような災害が起こるのか、災害から命を守るためにはどうしたら良いのか、そして被災後も生き延びるために何をしたら良いのかについて学ぶことができる研修になっています。 [p.18 Q8A1](#)

さらに
いいこと！

▲グループワークの様子

講座を受講した女性たちが、研修後も防災に興味を持って様々な講義を受け、複数名でサークルをつくって活動したり、学校で防災講話を行ったりしている。



9 2 避難所運営訓練

自信を持って、避難所運営に「参画」できる

地域では避難所の運営訓練を行っていないため、自主防災組織の中に避難所を運営できる人がいない状況でした。そこで、女性が自信を持って避難所運営を行えるようになることを目指して、訓練を実施しています。

研修では、地域の防災活動における女性の「参加」と「参画」の違いについて説明し、「参加ではいけないこと」、「計画の段階から女性も意見を発すること」など、意思決定過程に携わることの重要性をメッセージとして強く伝えていきます。

女性のための防災・減災リーダー養成講座

参加者募集

研修日時 平成28年 9月24日 25日

研修場所 静岡県立総合センター（静岡県立総合センター）

研修費用 1,000円（研修費別注）

研修人数 120人（研修費別注）

研修内容 2日間の研修を修了（研修費は研修費別注）

研修期間 9月24日（研修費別注）

研修時間 9時30分～12時30分

研修場所 静岡県立総合センター（静岡県立総合センター）

研修費用 1,000円（研修費別注）

研修人数 120人（研修費別注）

研修内容 2日間の研修を修了（研修費は研修費別注）

研修期間 9月24日（研修費別注）

研修時間 9時30分～12時30分

研修場所 静岡県立総合センター（静岡県立総合センター）

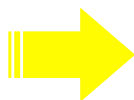


▲研修のチラシ



▲訓練の様子

さらにいいこと！



参加者の多くは、これまでは訓練に「行けばよい」という気持ちで参加していたが、研修の受講によって現状の訓練の内容は十分ではないことに気づいた。そこから、職場の防災担当になったり、地域で防災グループをつくって活動する女性が増えている。



静岡県 御前崎市
特定非営利活動法人
御前崎災害支援ネットワーク

<代表者>
代表理事 落合 美恵子

<連絡先>
特定非営利活動法人
御前崎災害支援ネットワーク
E-mail: omaezaki-
dsnet@shore.ocn.ne.jp

代表者からのメッセージ

被災後の避難生活では多くの女性がリスクを感じて生活しています。超高齢時代で人口減少が進んでいる中、地域防災は男女がともに支え助け合う必要性があります。

近年、女性が防災に関する講座や研修を受講する人が大幅に増加し、地域や職場、学校などで活躍を望む方が増えています。専門性の高い知識を得た女性を地域防災に生かすことが、強い防災力の未来が見えてくると感じています。

10

川辺復興プロジェクトあるく

SNSの活用 # 地域をつなぐハブ組織



組織概要

平成30年7月に発生した西日本豪雨の発災直後から、3名の女性により活動開始。現在は4名の男性を含む20名のメンバーで活動に取り組んでいる。

活動のきっかけ

被災後、地域の住民が安心して暮らしていける地域をつくりたい！

西日本豪雨の発災直後、県外から支援物資を送ってもらえることになりました。そこで、地域の人たちのニーズを知ろうと、パパ・ママ友達20名程度でグループLINEを開設し、それがきっかけで、情報交換が始まりました。

できる人ができることを行っていく中で、被災者自らが被災者を支援することになり、被災後の地域課題を軽減するため団体を発足しました。

メンバーの自宅の片付けが落ち着いた後、子育てや生活の再建と同時に団体の活動を始め、コミュニティの再建とつながりづくりのサロンを行い、現在は、地域の支援拠点となっています。



課題

育児・仕事・家庭・活動のバランスを取るのが難しかったが…

役員は全員女性。子育て世代も多いため、子育てと仕事、家庭、“あるく”の活動のバランスを見つけられない、被災後ということもあり、子供たちの心のケアが出来ているのかという不安などで、当時は悩んでいるメンバーが多かったです。

それぞれの家庭で、家族で協力して家事を行い、家族も活動に巻き込むことで、子供にも夫にも理解を得られ、応援してくれるようになっていきます。今では、役員も家族も団体の一員として活躍しています。

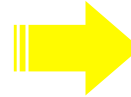
p.12 Q5A1

グループLINE「川辺地区みんなの会」

LINEを使って活動を広げられる

発災直後は、地域の99%が浸水し、住民や情報が集まる避難所がなかった状況でした。ケーブルテレビに映る情報をLINEから共有するなど、地域の人が必要とする確かな情報を発信する場になっていきました。情報を求めている人を招待していき、開設日には、参加者が100名に上りました。地域住民を対象に、今後の川辺地区に関するアンケートを複数回実施。Googleフォームを使ってアンケートを作成し、LINEで告知しています。その結果は、活動の方針検討に利用しています。誰もが情報を得られるよう、LINEを使い慣れない高齢者を中心に、使い方講座を開いています。 [p.13 Q5A2](#)

さらに
いいこと！



メンバーは子育て世代の女性が多く、PTAのネットワークを活用した学校関係の情報交換が活発に行われた。LINEやGoogleフォームなど、多様なツールを活用することで、多くの人との情報交換や意見収集に、成功している。



地域のハブ組織としての役割を担う

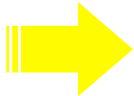
「防災」をテーマに地域の団体とつながれる

防災をテーマに、町内会や協議会などの地域の団体とつながることで、川辺復興プロジェクトあるくが、地域のハブ組織としての役割を担うようになりました。多世代の女性メンバーが中心となり活動していることで、イベントや取組に対して様々なアプローチを行うことができ、より多くの人を巻き込むことができます。 [p.21 Q9A3](#)



▲防災カフェの様子

これがコツ！



地域の中で取り残されがちな町内会未加入世帯にもアプローチ。地域全体で防災・減災に向けて取り組む体制づくりを目指している。



岡山県 倉敷市 真備町 川辺復興プロジェクトあるく

<代表者>
代表 榎原 聡美

<連絡先>
川辺復興プロジェクトあるく
電話:080-5752-0111

代表者からのメッセージ

災害に遭ってしまったことはとても辛く悲しい出来事でしたが、そのことによって、多くの人々の温かい想いに支えられ、たくさんの出会いがあったことは私たちにとって宝物です。皆さんからいただいた温かいパワーをバネにたくさんの人とのつながりを大切にしながら、災害前の町よりもっといい町に、そして災害に強い町づくりを目指して今後も活動をしていきたいと思っております。

流山子育てプロジェクト

子育て世代の防災活動 # ガイドブックの作成



組織概要

平成22年発足。平成25年度にNPO法人パートナーシップながれやまと協働で、「私にもできる防災・減災ノートIN流山」を刊行。

p.17 Q7A3



活動のきっかけ

子育て中の被災経験をもとに活動を開始

NPO法人パートナーシップながれやまが流山市から受託していた、子育て中の女性を対象とした男女共同参画講座「わたしへのごほうび講座」の修了者たちが、男女共同参画の学習を継続するために発足させた流山子育てプロジェクト。

活動当初は、ベビーカーの街歩きマップの作成などを行っていましたが、

東日本大震災の発災後、パートナーが帰宅困難者になり家族が離れ離れになる問題や、南相馬市から避難してきた子育て世帯との出会いなどを通して、防災と男女共同参画の課題を実感し、防災分野の活動を開始しました。



▲「わたしへのごほうび講座」の様子

課題

自主グループをつかって活動するには困難があったが…

p.12 Q5A1

自主グループを作って活動することには、活動場所や活動資金の確保を始め、初めての活動を子連れで行うため、様々なハードルがありました。

そこで、流山市から男女共同参画分野の事業委託を受け、「わたしへのごほうび講座」を企画運営していたNPO法人パートナーシップながれやまから支援を受けました。NPO法人パートナーシップながれやまには、団体メンバーの親世代の女性たちが多く、会議中の子供の見守りや活動のアドバイス、資金や場所の提供など、様々なサポートを受け、活動を広げることができました。

私にもできる防災・減災ノートIN流山

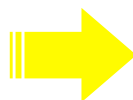
自分の経験から思いを共有して、活動を広げられる

プロジェクトを発足した際のメンバーには、東日本大震災が発生した時、東京に勤務する夫が帰宅できず、**子供を一人で守らなければならない状況だった女性もいました。同じ経験をした子育て世代で思いを共有**する中、流山市民活動公益補助金の活用とNPO法人パートナーシップながれやまからの資金提供を受け、「私にもできる防災・減災ノートIN流山」というハンドブックを作成しました。

ハンドブックは手に取った人が書き込めるようにノート形式にしました。ハンドブックを活用した出前講座を企画したところ、当初はあまり反応がありませんでしたが、流山市のコミュニティ課から紹介を受けた自治会で講座を実施したところ、自治会長たちの口コミによって、活動の幅が広がりました。



さらに
いいこと！



◀防災出前講座
「防災寺子屋
sole!(そ~れ)」
の様子

活動の幅が広がることで、子育て世代だけでなく高齢者世代や地域に住む外国人の防災対策に不安を感じる自治会長たちにも講座が広がり、外国語版の作成につながった。取組が広がることで外部から認められ、資金を調達できるようになり、団体として自立できた。



地方防災会議に委員として参画

プロジェクトのメンバーが公募枠に応募

「私にもできる防災・減災ノートIN流山」を作成していく中で、メンバーは行政の事業執行の仕組みを知り、**地方防災会議に委員として参画することの重要性を学び、地方防災会議の公募枠に応募して委員になり、その後さらにもう1人も委員になりました。**また、行政改革審議会や男女共同参画審議会、市民参加推進委員会などの委員や、市議員になったメンバーもいます。 p.20 Q9A1

千葉県 流山市 流山子育てプロジェクト

<代表者>
代表 青木 八重子

<連絡先>
流山子育てプロジェクト
電話:090-3577-4654

代表者からのメッセージ

防災の活動を通じて学んだことは、防災とはエンパワメントだということです。「いかに命を守り、暮らしを継続させるか」を考えることは、自分や家族、地域の未来を考えること。家族の中でケア役割を担うことの多い女性にこそ、防災に参画する意義と、課題を発見し、解決に取り組み、それを伝える能力があります。これからも防災活動を通じて、女性の力で地域をエンパワメントしていきたいです。

女性防災クラブ平塚パワーズ

#防災グッズの開発 #やりたい活動をみんなで形に



組織概要

平塚市が実施した防災研修を受講した30名の女性によって、平成8年5月に結成。結成から26年間、のべ300名のメンバーが活動している。

p.17 Q7A3



活動のきっかけ

女性の目線で
分かりやすく
防災を伝えたい！

初めの10年間は、三角巾の使い方やロープワークなど、消防職員や市の防災課職員から学んだ防災の基礎知識をそのまま伝える活動を行っていました。

結成から10年後、平塚パワーズは市から資金面も含めて完全に独立。独立を機に、女性の目線を大切にしたい、自分たちがやりたい活動を行おうと、会員同士の意見交換や知識の共有を行い、防災グッズの開発を始めました。

課題

団体の活動を
自治会では
受け入れてもら
えなかったが…

当初は、女性が講習を行うことを理解してもらえず、自治会に受け入れてもらえませんでした。

生活の身近なものを活用し、自信を持って紹介できるグッズを開発することがきっかけで興味を持ってもらうことができ、自治会と共に活動するようになりました。

日ごろの活動では、ひらつか市民活動センターを活用しています。センターの広報誌などで活動を取り上げてもらうことで、新たな活動の展開につながっています。

p.21 Q9A2



▲自治会との活動の様子

防災グッズの開発

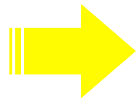
身近なもので作ったグッズを持って、自信を持って説明できる

月に一度の会議では、メンバーから出されたアイデアをみんなで形にして、身近なものを使った防災グッズを多数開発しています。講座でグッズの紹介を行うときは、メンバー同士で説明の練習をしあって、お互いの良いところを取り入れながらブラッシュアップしています。人前で発表するときには、普段から使っている自分自身の言葉で伝えることを何よりも大切にしています。

p.10 Q4A1

p.15 Q6A2

さらに
いいこと！



自分たちでやりたいことを提案し合い、協力して実現することで、それぞれが楽しんで活動している。生活に身近なものを使ったグッズは、女性から受け入れられやすい。自分の言葉で伝えることによって、メンバーたちの豊かな表現と一人ひとりの自信につながっている。



▲グッズを見せながら説明している様子

情報共有

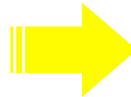
みんなが具体的な依頼内容を共有できる

講習の依頼が入ると、週に3~4回実施している役員会議で依頼表を作成し、メンバーに依頼します。

その場に参加していないメンバーも、一目見て会議の内容が把握できるよう工夫しています。活動の中では、**どんなに小さなことでも共有することを大事に**することで、会員の誰もが知っている、理解しているよう配慮しています。

p.13 Q5A2

さらに
いいこと！



地域ごとに6つのブロックに分かれて活動しているが、1つのブロックが考えた防災グッズを他のブロックでも同じように実践できるようになっている。



神奈川県 平塚市
女性防災クラブ
平塚パワーズ

<代表者>
会長 菅野 由美子

<連絡先>
平塚市 市長室 災害対策課
電話:0463-23-1111(代表)

代表者からのメッセージ

防災活動を進めていく時に必要なことは、協働できる方々との連携力ではないでしょうか。設立当初は、災害対策課から指導をうけ、現在は市民対象の防災講座のコラボを行っています。講座には平塚市内の自治会関係者をはじめ、市外からの防災団体の参加もあり、交流の場づくりにもなっています。これからも繋がりながら防災活動の輪を広げていきます。皆さんの参加をお待ちしています！

有識者からのメッセージ



関西学院大学
災害復興制度研究所
主任研究員・准教授

齊藤 容子

一人一人の視点は違う。
だからこそ多くの視点が必要。

「防災」「災害」といった言葉を聞くと、まだ自分とは関係のない世界の話と感じる方も多いのではないのでしょうか。同時に各地で頻発する地震や毎年のように発生する豪雨。少しずつ環境が変化してきていることも感じている方もいるでしょう。誰もが生きているうちに一度または複数回の災害を経験する時代に私たちは生きているとも言えます。行政や地域防災組織の方々に任せていけばいいと思っていたことを少しだけこういった本を通して自分で学んでみてください。そして自分たちの住む地域は本当に大丈夫なのかという疑いの目で見てみてください。そのときの気づきはもしかすると誰も気づいていないのかもしれないかもしれません。またはそんなとりとめのないことをとまっているかもしれません。(あなたにとってはそれがとりとめのないことではないことであっても!)一人一人の視点は違う。だからこそ多くの視点が必要。こんな当たり前のことが災害時という状況では見過ごされてしまいます。いざというときに準備してよかったと思えるよう考えていきましょう。



香川大学
四国危機管理教育・研究・
地域連携推進機構(IECMS)
地域強化研究センター
創造工学部
防災・危機管理コース 併任

磯打 千雅子

取り組みのひとつひとつが
多くの方の笑顔につながる。

この事例集を手にとって下さった方は、きっと「もっと地域を良くしたい」「自分の住むまちが大好き!」という想いにあふれていらっしゃる方だと思います。そんなお気持ちで活動していらっしゃるお姿、とっても魅力的で、私にとっては憧れです!

研究活動でいわゆる「先進地域」にお伺いすることが多いのですが、そのような地域では必ずと言って良いほど女性や子どもさんが楽しんで活動されているお姿を拝見します。地域イベントは土日で開催されることも多いでしょうから、小さなお子さんやご家族も気軽に参加できる雰囲気があると、担い手ご自身も積極的に活動しやすくなって結果としてみんなが生き活きと楽しめるのではないのでしょうか。活動することで笑顔が増える。みなさんのお取り組みひとつひとつが多くの方の笑顔につながっています。そして、何よりみなさんご自身が笑顔で活動できますように。この事例集がそのためのヒントになればうれしいです。



横浜市立大学
国際教養学部
都市学系
都市防災計画研究室
准教授

石川 永子

女性が意思決定の場に参画することが、 地域の問題解決につながる。

東日本大震災で甚大な被害があったある自治体で、避難所運営をされた地域代表の方々にお話をうかがって記録を作成した際に、代表は大半が男性ですが、その多くが「避難所の運営や在宅避難者を含めた物資配布のマネジメントには、女性が単に作業をするだけでなく、意思決定の場に参加してその意見を反映するようになってから、うまく回るようになった。」と実感を込めておっしゃっていました。地域が孤立する極限状態から長期の災害対応のなかで、何度も深刻な困難やもめごとが起こったが、地域の多様な住民の状況に細やかに気を配り、状況に応じて柔軟に判断し、人的なネットワークを活かし動く女性の力が問題解決につながると実感した、とのことでした。

平時の地域組織では男性中心に意思決定され、防災関連の訓練でも男女共同参画が「そうしなければならない」という綺麗ごとのままで、実態に落とし込むのにハードルもあり、悩むこともあります。実際に困難な場では大きな力になることを示しているのだと思います。



岐阜大学
流域圏科学研究センター
准教授

小山 真紀

よりよい未来には、 当事者参加が欠かせない。

誰にとっても無理のない環境を実現するには、当事者参加が欠かせません。例えば、子どもに関わってこなかった人だけで子どもの事を決めたり、栄養バランスを考えたことがない人だけで、災害時の食の問題を決めたり、障がいについてよく知らない人だけで障がいのある人の支援対策を決めたらどうなるでしょう？望ましい結果が得られる可能性は低くなりますよね。「何でこんなことに？」というようなことは、悪意でなく、むしろ善意で、ただし、「気づかない」ことによって起きてしまいます。だからこそ、女性をはじめ、いろんな人が参加できる環境を作っていきましょう。なかなか思うように活動できない人もいるかも知れませんが、「変えられないのは過去と他人、変えられるのは自分と未来」です。何とかしたい未来があるなら、それに気づいた自分自身が動くことが一番の近道です。悩むときには相談に乗りますので、無理なく楽しくありたい形に向けて一歩進んでみませんか？

これからの地域防災 女性が力を発揮するための ポイントチェック

あなたの地域の防災活動では、女性が力を発揮できていますか？
チェックリストを使って、現状を確認してみましょう。

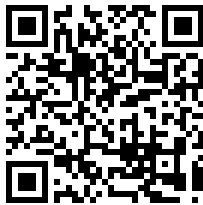
- 防災を日常とつなげた訓練を実施していますか？
- 開催曜日、場所、時刻などに配慮していますか？
- 女性たちの活動を地域の男性が知る機会がありますか？
- 役員の女性の割合や役割分担など、組織のルールを決めていますか？
- 一人あたりの活動の負担が重くならないよう配慮していますか？
- 一緒に活動する人を見つけられる機会がありますか？
- 会議で参加者全員が話しやすくなる工夫をしていますか？
- 女性も男性もともに理解できる防災研修を実施していますか？
- 女性たちが活動をPRする機会がありますか？
- 防災をテーマに活動する団体同士のネットワークがありますか？

お役立ち情報



災害対応力を強化する女性の視点 ～男女共同参画の視点からの防災・ 復興ガイドライン～（令和2年5月）

https://www.gender.go.jp/policy/saigai/fukkou/pdf/guidelene_01.pdf

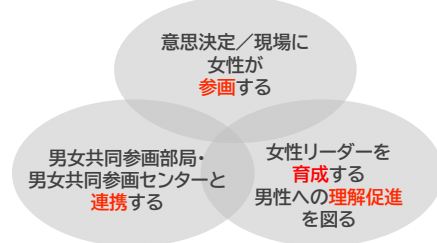


「災害対応力を強化する女性の視点」 実践的学習プログラム（令和3年5月）

<https://www.gender.go.jp/policy/saigai/program/index.html>



あらゆる防災・復興施策に男女共同参画の 視点を入れるための取組



21

<まず始めよう「平常時の取組」チェックリスト>

- 防災・危機管理担当部局には、女性職員が十分数いますか？
- 庁内職員に対して、ガイドラインを踏まえた防災研修・勉強会等を実施していますか？
- 防災研修・訓練は、防災・危機管理担当部局と男女共同参画部局・男女共同参画センターとが連携して実施していますか？
- 地方防災会議の女性委員の割合は3割以上を達成していますか？
- 地域防災計画に、男女共同参画担当部局やセンターの役割を位置づけていますか？
- 備蓄物資の準備に「備蓄チェックシート」を活用していますか？女性職員は参加していますか？
- 物資を供給するために協定締結や住民備蓄に取り組んでいますか？
- 自主防災組織における女性参画を進めていますか？
- 自治会長などの地域の有力者や各組織の長である男性に対して、女性の視点に立った防災について理解の促進を図っていますか？
- 女性消防団、婦人防火クラブ等の地域に根ざした組織や団体の長となる女性リーダーの育成を行っていますか？
- 女性リーダー同士の連携や情報共有の場を提供していますか？

9

参考文献

- 内閣府男女共同参画局「防災における女性のリーダーシップ推進に関する調査研究報告書」
https://www.gender.go.jp/policy/saigai/pdf/kenshu_bousai_houkoku.pdf
(平成28年3月)
- 内閣府男女共同参画局「平成29年度 地域活動における男女共同参画の推進に関する実践的調査研究報告書」
https://www.gender.go.jp/kaigi/kento/chiiki/pdf/report_h29.pdf
(平成30年3月)
- 池田恵子、浅野幸子「市区町村における男女共同参画・多様性配慮の視点による防災施策の実践状況：地域コミュニティの防災体制に定着するための課題」
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jisss/29/0/29_165/_pdf
(平成28年11月)
- 内閣府「平成22年版 防災白書」
https://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/h22/bousai2010/html/honbun/0b_toku_04.htm
(平成22年7月)

女性が力を発揮するこれからの地域防災
～ノウハウ・活動事例集～

発行日	令和4年3月
発行者	内閣府男女共同参画局
編集・協力	株式会社サイエンスクラフト
装丁・デザイン	高木 凜

地域の防災で女性が力を発揮するということは、

- 防災活動の担い手が増え、子供や若者、高齢者や障害者等の多様な視点が活動に反映されます
- 防災を自分事として考え、一人ひとりが災害に備え行動するようになります
- 性別で役割分担せず、男女が共に防災に取り組むことで、地域組織の負担が減ります
- 地域組織の運営が柔軟になり、それぞれの生活に合わせて防災活動を続けられるようになります
- 男性が女性の防災活動を知る機会が増え、お互いの理解が深まり、地域の共助力が高まります
- 必要な情報が幅広い世代に伝わるようになります
- 学校等との連携が強化され、将来の防災人材の育成につながります

女性がさらに力を発揮できれば

災害に強い地域をつくることができます

さあ、できることから始めましょう

